

平成30年度 子どもの心のケアに係る総合拠点（仮称）

開設準備委員会 資料

2017-2019 3カ年の検討スケジュール

WG	課題	2017年度	2018年度	2019年度
医療連携	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 限られた医療資源を生かし、効果的に子どもの心の診療を行うため、地域の医療機関との役割分担や連携システムの構築が必要 ◆ ライフステージに応じた切れ目ない支援体制を構築するためには、小児科だけでなく、地域の精神科との連携が必要 	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 各病院の特色を生かした役割分担・連携の現状・課題の検討 ◆ 地域の小児科医との連携の在り方の検討 	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 各病院の特色を生かした役割分担・連携の在り方の検討 ◆ 地域小児科医との連携方策の検討 ◆ 精神科医との連携の在り方の検討 	<ul style="list-style-type: none"> ◆ ライフステージに応じた支援のための医療機関の連携方策の検討
地域連携	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 発達障害等の早期発見・早期支援のため、市町村職員等の地域における担い手の育成と連携強化が必要 ◆ 地域小児科医がかかりつけ医として1次医療を担うため、市町村との連携が必要 		<ul style="list-style-type: none"> ◆ 地域における担い手の育成、連携の在り方の検討 ◆ 地域小児科医と市町村との連携の在り方の検討 	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 地域における人材育成、連携強化の方策の検討 ◆ 地域小児科医と市町村の連携方策の検討
医療福祉施設連携	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 社会的養護が必要な児童に対して適切な支援を提供するため、児童心理治療施設をはじめ、各入所施設の対象児童の明確化や北病院との連携方法の検討が必要 	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 児童心理治療施設の役割と対象児童の状態の検討 ◆ 医療・福祉両面の支援が必要な児童の対応について検討 	<p>（実施体制等について、庁内で実務的に検討）</p>	<p>（実施体制等について、庁内で実務的に検討）</p>

目 次

1 ワーキンググループの検討状況について

(1) 医療連携ワーキンググループ

① 地域の小児科医とこころの発達総合支援センターとの診療連携 (1 - 2)

② 各医療機関の特色に応じた役割分担・連携の在り方

ア 小児リハビリテーション (3)

イ 心身両面のケアが必要なケース (4)

③ ライフステージに応じた支援のための連携 (5 - 6)

(2) 地域連携ワーキンググループ

・ 地域における支援・連携体制の強化 (7 - 9)

2 今後の取り組みについて (10)

1 ワーキンググループの検討状況について

(1) 医療連携ワーキンググループ

① 地域の小児科医とこころの発達総合支援センターとの診療連携

検討内容・結果	今後の検討課題
<ul style="list-style-type: none">発達障害について、ここセンや小児リハ機関が専門機関として2次医療を中心に行えるよう、地域の小児科医に、可能な範囲で1次医療を担っていただくための具体的な方策について検討を行った。 <p>(現状)</p> <ul style="list-style-type: none">* 診療マニュアル、診療連携シート作成 (H27)* 医療連携会議 (小児科医とここセン医師等) 内容：症例検討 + 学習会 + 意見交換* 「連携パス」試行 (H30～H31) <p><検討結果></p> <ul style="list-style-type: none">医療連携会議の拡大 (小児科医への参加働きかけ)「連携パス」の本格的な実施 (H32～)	<ul style="list-style-type: none">○ WGの中で、課題等とされた意見等について、更に検討を深めていく。 <p>(主な意見等)</p> <ul style="list-style-type: none">○ 診断、処方、治療方針の策定等について、ここセンの支援が必要○ 養育環境の把握等、現状では診察時間の確保が困難、診療報酬の問題もあり○ 診療連携により、各医療機関 (精神科病院、リハ病院等) の専門性を認識○ 地域の保健、福祉、心理、教育等との連携が必要 (→地域連携WGで検討)

【地域の小児科医とこころの発達総合支援センターとの診療連携イメージ】

[1次医療機関]

地域の小児科医
(かかりつけ医)

連携

地域の支援機関
(保健・福祉・教育等)

地域連携WGで検討

- 診療連携パスを活用
- 診断、処方、治療方針の策定等をバックアップ

[2次医療機関]

こころの発達
総合支援センター

連携

総合病院等
(小児科等外来)

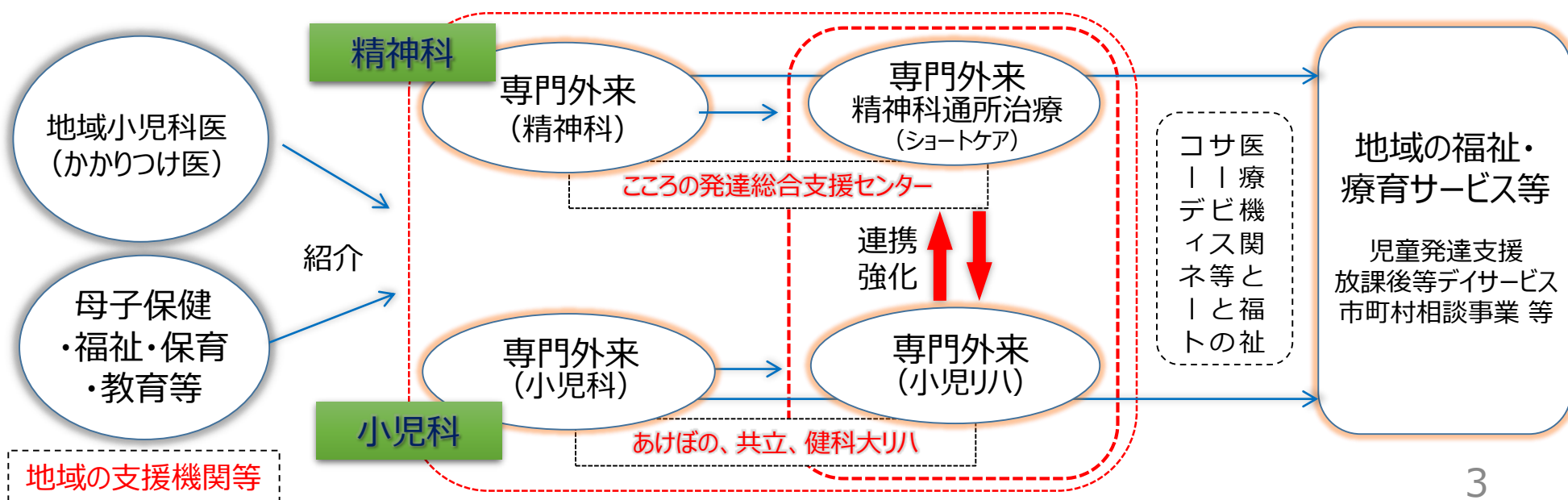
小児リハビリテーション
を実施する医療機関

診療連携により、小児リハ待機の改善も期待

② 各医療機関の特色に応じた役割分担・連携

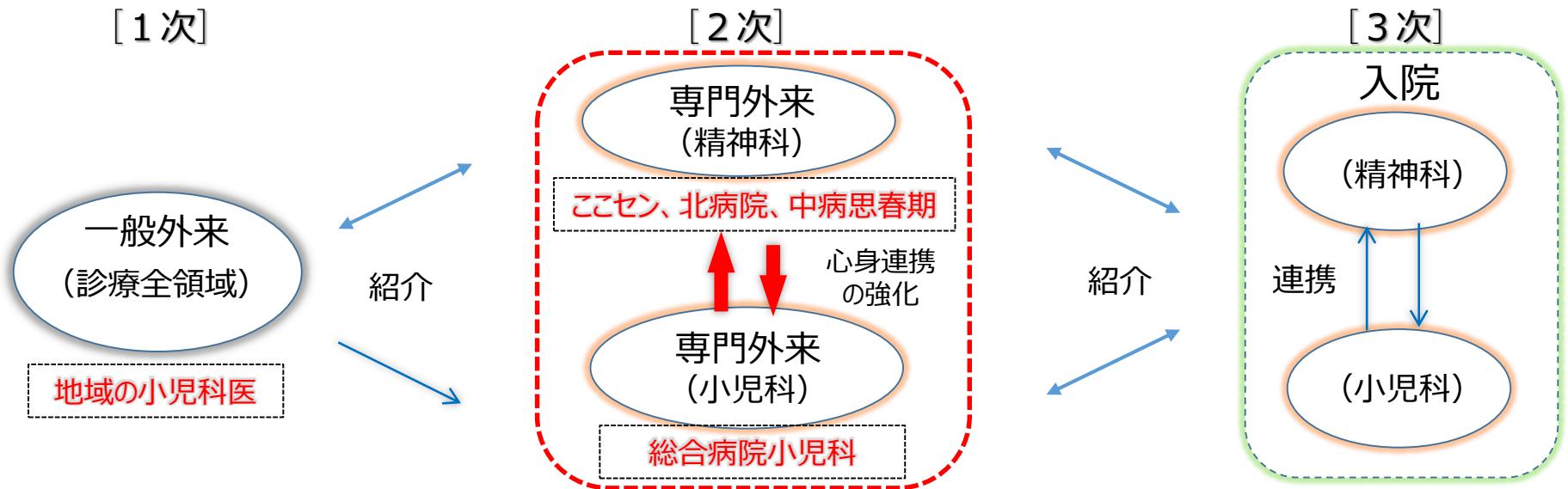
ア. 小児リハビリテーション

検討内容・結果	今後の検討課題
<ul style="list-style-type: none"> 発達障害について小児リハ機関が専門機関として2次医療を中心に行うための課題等について検討を行った。 <p>(現状)</p> <ul style="list-style-type: none"> * リハのニーズが増加、一方でリハ以外の相談対応も増加 * サービス利用や手当受給のための診断書作成に時間 * 福祉等サービスの情報は得にくく、繋げるには労力もかかる <p><検討結果></p> <ul style="list-style-type: none"> 小児リハに関するノウハウの共有、スキルアップ、連携強化等により小児リハ機関の専門性を確保することが必要 	<ul style="list-style-type: none"> WGの中で、課題等とされた意見等について、更に検討を深めていく。 <p>(主な意見等)</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域の小児科医が、1次医療を担うことで、小児リハの待機期間の改善に繋がる 医療機関から福祉・療育サービス等に繋げやすくする仕組みが必要



イ. 心身両面のケアが必要なケース

検討内容・結果	今後の検討課題
<ul style="list-style-type: none"> 医療機関の役割・連携を検討する上で、心身両面のケアが必要なケースについて検討を行った。 <p><検討結果></p> <ul style="list-style-type: none"> 身体疾患or精神疾患の見極めが難しいケース <ul style="list-style-type: none"> → 身体科・精神科がそれぞれ診断し、原疾患を特定 身体症状と精神症状の独立した疾患が合併しているケース <ul style="list-style-type: none"> → 各医療機関が、連携を図りながらも別々に診療 単一の疾患により身体症状、精神症状の両方が起こるケース <ul style="list-style-type: none"> → 各医療機関がより濃密に連携し、リアルタイムに診療 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 整理した役割を今後の診療連携等の取り組みに反映



調整役(コメディカル等)がいるとスムーズな連携が期待できる

③ ライフステージに応じた支援のための連携

検討内容・結果	今後の検討課題
<ul style="list-style-type: none">精神科医との連携などライフステージに応じた医療機関の連携の在り方について検討を行った。 <p>(現状)</p> <ul style="list-style-type: none">* 年代に応じて状態や症状は変化、対応も変わる。* 環境変化への弱さ、継続希望があり移行が困難な場合がある。* 思春期や若年成人世代のサポート機能が弱い <p><検討結果></p> <ul style="list-style-type: none">対象者に関する情報の共有や、それぞれの専門性や診療方法等について共通の理解が必要小児科医と精神科医との連携や役割分担が必要医療機関と、福祉・保健・教育等の各機関が連携、切れ目のない、きめ細かな支援の展開が必要	<ul style="list-style-type: none">○ WGの中で、課題等とされた意見等について、更に検討を深めていく。 <p>(主な意見等)</p> <ul style="list-style-type: none">○ 子どもの頃に気付かれず、成人になってから課題が現れるケースがある。○ 医療機関では自立支援などの対応が難しく、地域の福祉、保健等の支えが必要○ 思春期や若年成人世代の発達障害等に対する福祉などのサポート機能が必要

【ライフステージに応じた支援のための連携イメージ】

小児科医と精神科医との連携

- 小児科医と精神科医の縦断的な連携
- 情報共有や共通理解

成人期

医療、地域保健、福祉、自立支援等

学齢期

医療、学校保健、福祉、教育、等

幼児期

医療、母子保健、保育、福祉 等

医療と保健・福祉・教育等との連携

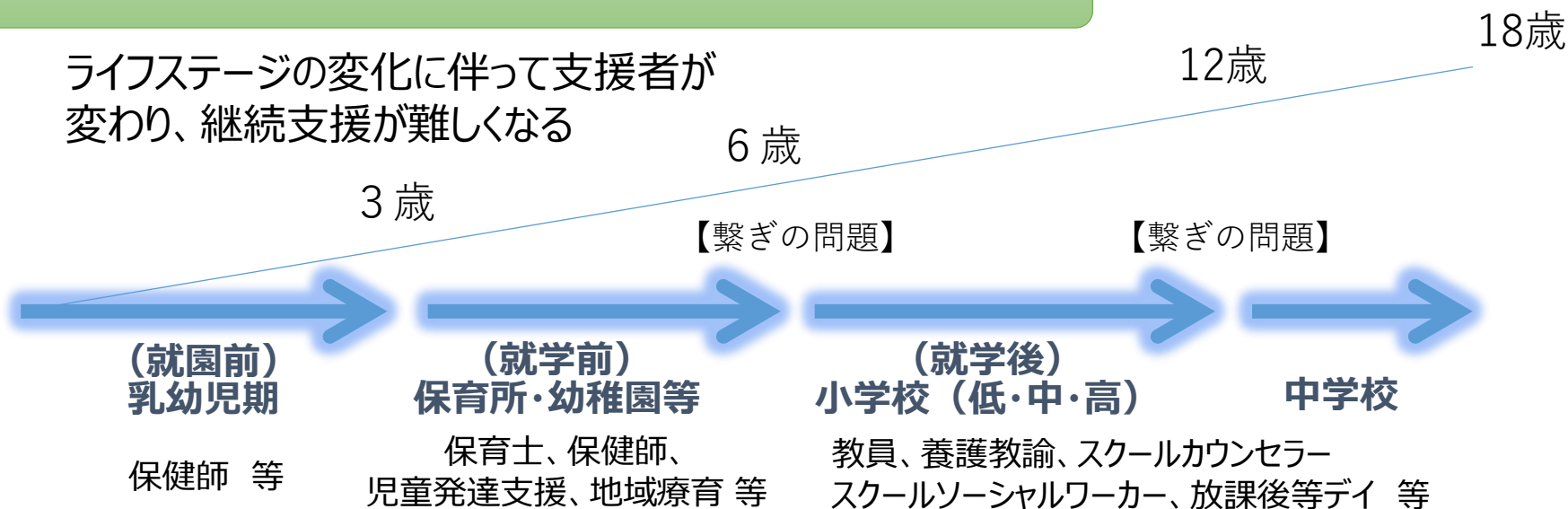
- 医療、保健、福祉、教育等の連携
- 思春期世代の福祉的機能の充実

2 地域連携ワーキンググループ

地域における支援・連携体制の強化

検討内容・検討結果	今後の検討課題
<ul style="list-style-type: none">地域における担い手の育成や連携、地域小児科医と市町村等との連携の在り方について検討を行った。 <p><現状></p> <ul style="list-style-type: none">* 市町村等において、発達障害等の早期発見は進んでいる。* グレーゾーン、環境など複雑な課題のあるケース対応が困難* ライフステージのある段階において、支援が途切れる状況が発生* ここセンでは市町村等への支援を実施* 研修会、診療マニュアル、連携パス等により医療支援体制を整備 <p><検討結果></p> <ul style="list-style-type: none">支援機関が、“顔の見える関係”を構築し、子どもの情報を上手く繋げ、共通の認識をすることが必要	<ul style="list-style-type: none">WGの中で、課題等とされた意見等について、具体的な改善策の検討を進めていく。 <p>(主な意見等)</p> <ul style="list-style-type: none">小児科、地域の各支援機関の間で、情報を共有する機会がない。市町村や地域により、マンパワー、組織体制、周辺の資源・連携先等が異なる。小児科医は、福祉等のサポートを必要とするが、相談先や支援機能がわからない。保健師は、見立てや個別支援のほか、地域づくりに関するスキルを高めることも必要継続した支援を行うため、支援機関の中で、モニタリングやフィードバックできる仕組みが必要地域の小児科医をバックアップし、見立てや診断等の負担を軽減するためのしくみが必要

子どもの心の問題に関する、地域の支援機関の繋ぎの問題

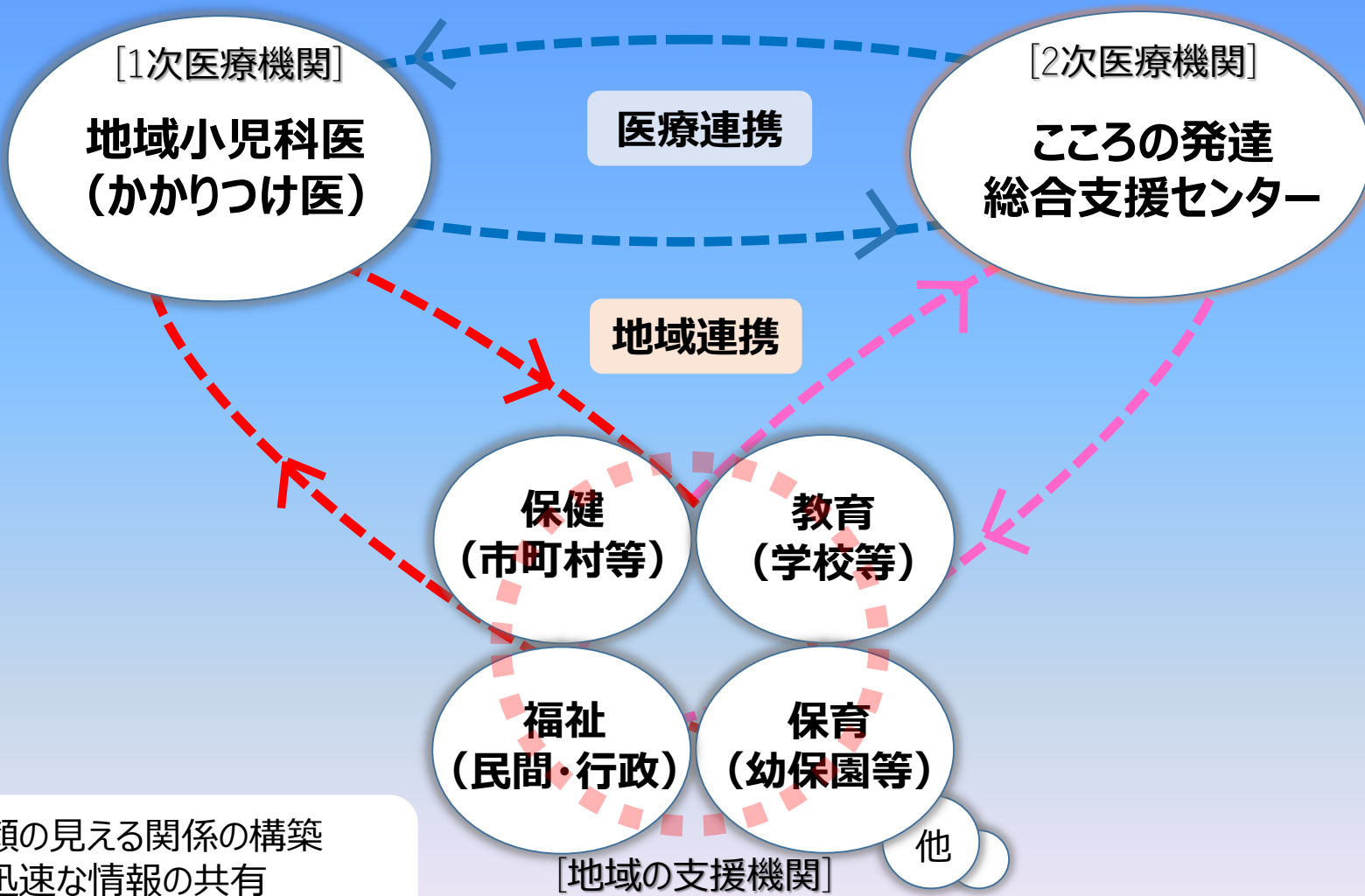


←----- **地域の小児科医 = 子どもの成長段階に応じた関わり方は？** ----->

一次医療を担う **地域の小児科医** と **各支援機関** との
地域連携ネットワーク の構築

- ・支援機関の実務者がそれぞれの役割を理解した、“顔の見える関係”の構築
- ・対象とするケースの迅速な情報共有
- ・各支援機関(者)の役割分担による、一貫した切れ目のない支援

【地域の小児科医と支援機関の連携のイメージ】



- 顔の見える関係の構築
- 迅速な情報の共有
- 一貫した切れ目のない支援

2 今後の取り組みについて（開設準備委員会及びWGの検討課題）

WG	課題	2017年度	2018年度	2019年度
医療連携	<ul style="list-style-type: none"> ◆限られた医療資源を生かし、効果的に子どもの心の診療を行うため、地域の医療機関との役割分担や連携システムの構築が必要 ◆ライフステージに応じた切れ目ない支援体制を構築するためには、小児科だけでなく、地域の精神科との連携が必要 	<ul style="list-style-type: none"> ◆各病院の特色を生かした役割分担・連携の現状・課題の検討 ◆地域の小児科医との連携の在り方の検討 	<ul style="list-style-type: none"> ◆各病院の特色を生かした役割分担・連携の在り方の検討 ◆地域小児科医との連携方策の検討 ◆精神科医との連携の在り方の検討 	<ul style="list-style-type: none"> ◆ライフステージに応じた支援を行っていくための医療機関等の連携方策の検討
地域連携	<ul style="list-style-type: none"> ◆発達障害等の早期発見・早期支援のため、市町村職員等の地域における担い手の育成と連携強化が必要 ◆地域小児科医がかかりつけ医として1次医療を担うため、市町村との連携が必要 		<ul style="list-style-type: none"> ◆地域における担い手の育成、連携の在り方の検討 ◆地域小児科医と市町村との連携の在り方の検討 	<ul style="list-style-type: none"> ◆地域の小児科医と地域の支援機関との地域連携ネットワーク構築の検討